

加工・業務用野菜取組事例①(産地・生産者)

調査日(更新日)	平成28年2月25日(平成一年一月一日)
----------	----------------------

岡山県笠岡市 農業生産法人 有限会社 エーアンドエス

1. 地域の概要(気象・地理・立地・歴史等)

岡山県の南西部に位置し、農業生産に好条件な気候的に温暖で晴天率が高く、天災の少ないことが特徴の地域。昭和41年から国より大規模な干拓事業が行われ、平成2年に1,811haの干拓地(内農地用地1,191ha)が完成し、耕種複合、畜産、園芸等の生産用地として活用されています。

2. 産地または生産者の基本情報

事業者名	農業生産法人 有限会社 エーアンドエス
代表者名	代表取締役 山本 晃
所在地	岡山県笠岡市カブト中央町247
連絡先	TEL:0865-66-4040 FAX:0865-66-4040
ホームページ	WWW.sinobinosato.jp/kasaoka/
連絡先担当者	栽培管理部長 大平 貴之

3. 経営全体の概要

作目名	たまねぎ	キャベツ	かぼちゃ
栽培面積	11.8ha	16.9ha	10ha
出荷量	354t	560t	100t
販売額 ※	約50円/kg	約50円/kg	約100円/kg
労働力・構成員	正社員3名(収穫等人手が必要な農作業時には補助作業員を臨時雇用)		
生産施設・機械	育苗ハウス、定植機、ブームスプレーヤー、カルチペータ、たまねぎ収穫機 等		
経営の推移、特徴等 (加工・業務用野菜に取り組んだきっかけ等)	少子化等により、生鮮食品よりも加工・業務用野菜の比率が高くなっている現状で、今後さらに加工業務用野菜の需要が伸びるということ、契約栽培を行うことで安定した農業経営が可能となることなどから、平成15年度より加工・業務用野菜の生産に取り組んでいる。		

※単価

4. 加工・業務用野菜の取組概要			
野菜名	たまねぎ	キャベツ	かぼちゃ
栽培面積	11.8ha	16.9ha	1ha
出荷量 ※1	60t	67.6t	10t
販売額 ※2	約50円/kg	約50円/kg	約100円/kg
出荷時期	6月～8月	5月～6月 11月～3月	7月～8月 11月～2月
出荷先	全農・JA倉敷かさや		
契約割合	契約栽培については、今後行っていく予定。		
出荷形態	出荷形態はすべて鉄コンテナで行っている。キャベツについては、外葉を1～2枚残して出荷し5～6月のみ1～2日予冷を行っている。 たまねぎについては、横径6cm以上(M以上)を基本とし、ほ場での堀取り後に2日間乾燥を行っている。実需者までの配送は当社で行っている。		

※1:未契約のため、数値自体明確に加工・業務用として把握している数字ではない。

※2:単価

5. 栽培上の特徴(作付体系・栽培技術の確立等)

ほ場の排水は良いことから、畝立ては行わず、平畝栽培を行っている。連作障害を防ぐ観点から、かぼちゃ、たまねぎ、キャベツの種族の異なる作物を交代で栽培している。単収を上げるためには施肥が重要であることから、ほ場ごとに土壌分析を行い、過不足のない施肥、適期追肥、葉面散布等による養分補給を行うとともに、減農薬かつ低コストな作付体系に取り組んでいる。また、ソルゴーを間作に緑肥作物として導入し、地力増進を図っている。

6. 販売上の課題と対応(出荷先からのニーズ、出荷先への要望等)

加工・業務用野菜については、定時・定量・定価格・定品質の4定が常に求められており、安全・安心で効率的な大規模大量生産体系を完成させることが課題となっている。この課題に対し、育苗から出荷まで自社の栽培管理システムを活用した取組を行っている。

7. 今後の展開方針

現在、輸入野菜の上位である、たまねぎ、かぼちゃ、キャベツについて国産への転換を図るために、規模拡大と機械化による生産の効率化を図る。なお、地域の小規模農家等と競争するのではなく、共存できる環境づくり、この3作物の国産供給率を上げることを目指している。

8. 事業者から一言 <実需者・消費者へのメッセージ等>

弊社は土壌分析などを行い、過不足のない施肥、適期追肥等による野菜づくりに日々努力している。その取組に加えて栽培技術の確立や省力化、栽培面積の拡大及び物量による低価格・省力化への対応、地域の生産者との協力、加工業務用野菜への特化等に取り組んでいる。今後も近隣の農家の見本となるように日々努力していきたい。

